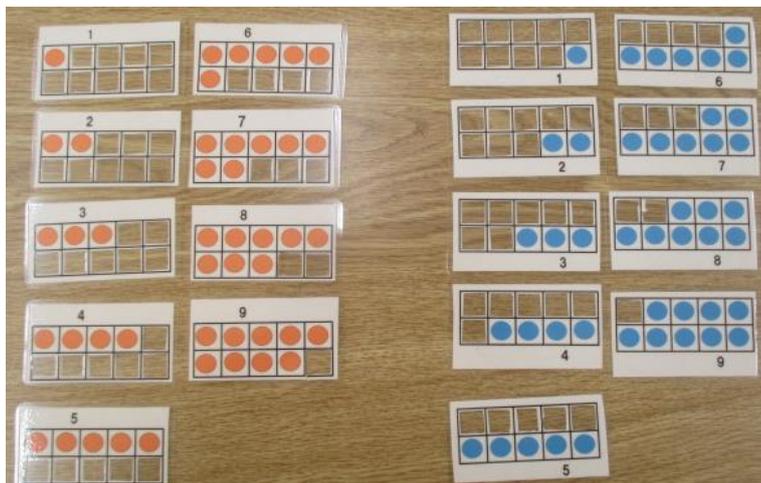


主に関係する 領域・教科	算数	氏名：道下真優子
教材・教具名	あわせて10になる数をさがそう	
ねらい	10の補数が視覚的にわかりやすくなる	

教材教具の説明（写真等を使ってわかりやすく記述）

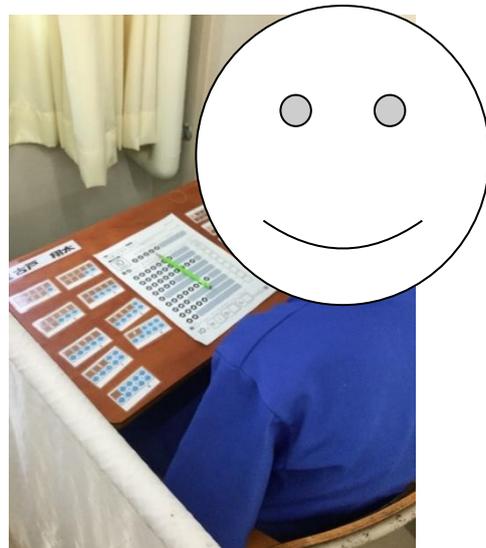
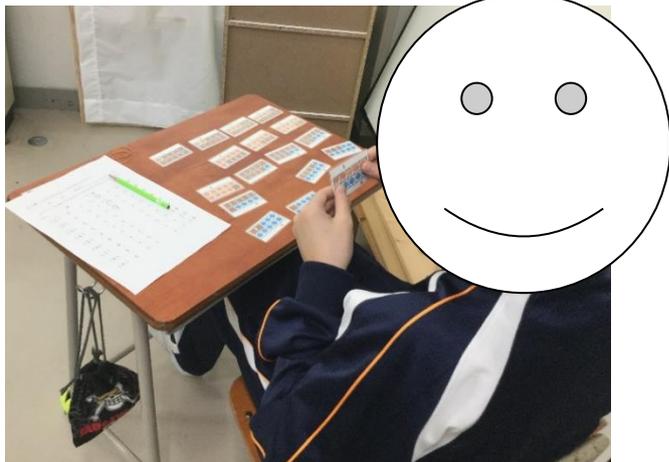


- ・繰り返し上りのあるたし算（答えが2けたになる）で児童が毎回○を書いて計算していたので、暗算で計算できるようになってほしいと思い、1つ前の段階に戻って10の補数の計算の教材として制作した。
- ・重ねるとぴったり10になる数に分かる。足しても10にならないときは穴が空くので分かりやすい。
- ・パズルが得意な児童なので、パズル感覚でできる教材になるようにした。

制作のポイント	使用材料・部品
<p>（箇条書きで記入）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 足す数のカードは左上から○の数が増え、足される数は右下から○が増えるので、パズルのようにぴったりはまるようにした。数字も重ねた時に分かるように上下に分けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用紙 ・ ラミネート

実践	<p>（使い方、工夫など、活用場面を写真等でわかりやすく説明 箇条書きで記入）</p> <p>（裏面使用も可）</p> <p>裏面記載に記載</p>
	<p>（箇条書きで記入）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カード使用前は、児童は1問ごとに答えを言って教師に確認していたが、カードを使用してからは一人で黙々と計算に取り組んでいた。計算も間違えることがなくなった。
効果・改善点等	<p>（箇条書きで記入）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カード使用前は、児童は1問ごとに答えを言って教師に確認していたが、カードを使用してからは一人で黙々と計算に取り組んでいた。計算も間違えることがなくなった。

<実践について>



- ・カードを作る前、「10をつくろう」のプリントを行うと、繰り返しのあるたし算のときのように○を書いて答えを書いていた。途中で集中が切れてしまうのか、ぼーっとしている時間も多かった。
- ・カードを使用すると、はじめにすべてのカードを並べ、問題ごとに合う数字のカードを重ねて答えを書いていた。カードを使う前より、集中している時間も長くなりプリントを終える時間が早くなった。
- ・慣れてくると重ねなくても目視で答えが書けるようになった。
- ・片付けも色ごとに1から順に重ねて片付けている。
- ・繰り返しカードでの学習を行った後、3学期は10のたし算のフラッシュカードなどを使って暗算につながるような学習に移行していきたい。

課題として

- ・答えが10より少ないたし算で重ねてしまったときは、穴が空くのでぴったり10でないことは目で見てわかりやすいが、11や12など10より大きくなったときは重ねても10ぴったりには見えるので、間違えてしまう子もいるかもしれない。